

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	中丹地域有害鳥獣処理施設管理事業							事業コード	210153					
政策体系	基本政策	8 市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち				政策目標	3 稼ぐ力のある農林業の確立							
	施策名	2 有害鳥獣対策の推進						施策コード	832					
事業担当	所属	25020000 産業政策部 農林業振興課				所属長	中田 浩二							
会計情報	款	06 農林業費		項	02 林業費		目	02 林業振興費		会計	01 一般会計	決算附属資料	188	頁
計画期間	開始年度	平成27年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	福知山市鳥獣被害防止計画				R5現在の状況	継続中	
根拠法令等	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☒ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☒ その他 (綾部市及び舞鶴市との共同経営)													
関連事業	有害鳥獣捕獲事業、有害鳥獣防除事業、スマートシティ推進事業(有害鳥獣捕獲)													

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	有害鳥獣により増加する農作物被害を軽減させるため、共通の課題を抱える中丹3市(福知山市・綾部市・舞鶴市)の共同利用施設として設置した「中丹地域有害鳥獣処理施設」の適正な管理運営を行うことにより、駆除隊員の埋設労力負担を軽減し捕獲意欲の増進を図り、農作物被害の軽減を推進する。					
対象者	福知山市有害鳥獣駆除隊員		対象者数	209	単位あたりコスト	314.4
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	51,916		64,219		66,070		128,896				
	② 補正予算	0		0		0		0				
	③ 繰越予算	0		0		0		0				
	前年度繰越	0		0		0						
	次年度繰越	0		0								
小計(①～③)		51,916		64,219		66,070		128,896				
予算財源内訳	① 一般財源	27,396		36,538		31,916		35,405				
	② 国支出金	0		0		0		0				
	③ 府支出金	0		0		0		0				
	④ 地方債	1,700		2,100		4,800		61,000				
	⑤ その他特財	22,820		25,581		29,354		32,491				
決算情報	① 流充用額	2,183		0								
	② 配当予算	54,099		64,219								
	③ 執行額	54,099		60,422								
	④ 執行率	100.0%		94.1%								
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.62	/	0.00	0.66	/	0.00	/				
	② 概算人件費	4,960		5,280								
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		59,059		65,702								
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	中丹地域有害鳥獣処理施設管理運営他市負担金		種類	雑入		25,962		決算附属資料	50	頁
			中丹地域有害鳥獣処理施設管理事業(過疎対策)			農林業債		2,800			52	
			中丹地域有害鳥獣処理施設管理事業(きょうと地域連携交付金)			農林業費府補助金		15,385			30	

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標			
	有害鳥獣による農作物年間被害額	千円	26035	/	31242	34744	/	29247	15874	/	27251	/	27370	21560
				/			/			/				
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標			
	年間処理頭数	頭	9606	/	4205	9301	/	4205	8621	/	4205	/	4205	4205
		単位あたりコスト	4.7		5.8		7.0							
			/		1		/							
		単位あたりコスト												

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	有害鳥獣対策は本市の喫緊の課題であり、捕獲した個体の処分をこれまで埋設していたが、本施設の設置により、埋設労力を軽減し、有害鳥獣捕獲の推進に寄与している。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	焼却時の燃料の灯油について、入札による単価契約を締結し、コスト削減を行っている。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	活動実績は年間処理頭数としているが、目標より大幅に増加傾向にある。これは有害鳥獣の捕獲が活発に行われている現れである。有害鳥獣の捕獲が活発に行われている理由として、本施設により捕獲鳥獣を埋却処分する労力が軽減されたことが挙げられ、有害鳥獣の捕獲に対し大きな成果となっており、投資効果の高い事業であると考えている。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	有害鳥獣対策事業の推進により、R4年度の農作物被害額は大幅に減少した。一方で、対策を緩めると、有害鳥獣の生息数増加や、農地への侵入による農作物被害の拡大が懸念されるため、継続して「捕獲」と「防除」両面の対策を推進する必要がある。 「有害鳥獣処理施設」においては、駆除隊員の負担を減らすことにより、有害鳥獣捕獲の推進に寄与しているが、当初の処理計画頭数を大幅に上回る処理頭数となっているため、駆除隊員には埋設処分等の依頼を行っている。		
改 善 策	一時保管用冷凍庫を増設する等、有害鳥獣の搬入が多い6月から10月の焼却処理頭数のピークカットを行い、焼却炉の長寿命化を図る。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☒ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	例年10月ごろに、市内にある7つの一時保管冷凍庫及び処理施設内の一時保管冷凍庫が、焼却処理が追い付かず駆除個体が入りきらなくなっている。この状況改善に向け、冷凍庫増設に向けて関連する市(舞鶴市、綾部市)及び京都府(振興局)と協議し検討する。また、施設の適切な維持管理に向け、焼却炉改修工事や一般廃棄物処理計画の策定に取り組んでいく。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 他事業を統合	☐ 廃止/休止 (統合事業名:	☒ 予算拡充)	☐ 予算縮減 ☐ 他事業へ統合	(統合先事業名:	)
--------	--	---	---	--	----------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

事業属性

事業名	有害鳥獣捕獲事業							事業コード	210174		
政策体系	基本政策	8 市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち					政策目標	3 稼ぐ力のある農林業の確立			
	施策名	2 有害鳥獣対策の推進						施策コード	832		
事業担当	所属	25020000 産業政策部 農林業振興課					所属長	中田 浩二			
会計情報	款	06 農林業費	項	02 林業費	目	02 林業振興費	会計	01 一般会計	決算附属資料	190	頁
計画期間	開始年度	平成25年度	終了予定年度	令和7年度	関連計画名	福知山市鳥獣被害防止計画				R5現在の状況	継続中
根拠法令等	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、福知山市鳥獣被害防止対策事業実施要綱、福知山市有害鳥獣捕獲事業デジタル簡易無線機導入補助金交付要領、福知山市有害鳥獣捕獲隊狩猟免許取得支援事業補助金交付要綱										
事業区分	☐ 法定受託事務 ☒ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (										

事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	本市におけるシカ・イノシシ等の野生鳥獣による農作物被害の軽減を図るため、「福知山市鳥獣被害防止計画」に基づき、有害鳥獣駆除隊による捕獲を効果的に実施する。				
対象者	福知山市有害鳥獣駆除隊員	対象者数	209	単位あたりコスト	470.6
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☒ 補助金交付 ☐ その他 (				

予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	103,715		106,084		105,015		108,660					
	② 補正予算	6,170		△ 15,563		0		0					
	③ 繰越予算	0		0		0		0					
	前年度繰越	0		0		0							
	次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		109,885		90,521		105,015		108,660					
予算財源内訳	① 一般財源	59,790		53,289		0		0					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	50,083		37,220		48,155		54,155					
	④ 地方債	0		0		0		0					
	⑤ その他特財	12		12		56,860		54,505					
決算情報	① 流充用額	△ 50		△ 173									
	② 配当予算	109,835		90,348									
	③ 執行額	106,319		87,724									
	④ 執行率	96.8%		97.1%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	1.06	/	0.80	1.08	/	0.80	/					
	② 概算人件費	10,480		10,640									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		116,799		98,364									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	対象鳥獣捕獲等参加証明書手数料、鳥獣捕獲等許可証等再交付手数料		種類	農林手数料		1		16	頁		
			緑の公共事業(有害鳥獣駆除関係事業)			農林業費府補助金		5,946				決算附属資料	30
			鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業			農林業費府補助金		30,978					

業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標			
	有害鳥獣による農作物年間被害額	千円	26035	/	31242	34744	/	29247	15874	/	27251	/	27370	21560
				/			/			/				
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標			
	年間捕獲頭数	頭	6066	/	5965	6151	/	5965	5130	/	5965	/	6485	6485
		単位あたりコスト	17.1		17.3		17.1							
			/		3		/		/		/		有害鳥獣捕獲事業	
		単位あたりコスト												

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	本市における有害鳥獣の駆除活動は、福知山市有害鳥獣駆除隊員の積極的な活動が必要となる。駆除の要望は年々増加しているなど市民ニーズが高く、継続が必要な事業である。 有害鳥獣の捕獲頭数増加に向け、捕獲実績に応じた報償金の支払いや活動に必要な経費への補助を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	駆除隊員に対する報償費は、項目を細分化し、それぞれの項目が全て適切に行われたことが確認できた場合のみ、奨励金を満額支払うこととしている。適切な駆除活動が報告書等で確認ができなかった場合は、奨励金の一部を減額するなど、適切な駆除活動の推進及び効率的な駆除活動の実施を図った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	捕獲実績報告書に基づき、獣種別の捕獲実績を集計・把握している。 活動実績は、福知山市鳥獣被害防止計画に基づく捕獲頭数であり、実績数値の管理もできている。 兵庫県立大学や各狩猟団体と連携し、有害鳥獣の効果的な捕獲等に向け、兵庫県立大学や各狩猟団体と連携・情報共有等を行っている。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	有害鳥獣対策事業の推進により、R4年度の農作物被害額は大幅に減少した。 一方で、対策を緩めると、有害鳥獣の生息数増加や、農地への侵入による農作物被害の拡大が懸念されるため、継続して「捕獲」と「防除」両面の対策を推進する必要がある。 「捕獲」対策においては、豚熱の影響により野生イノシシが減少したことや、捕獲が比較的容易な田畑周辺等でのシカ捕獲がすすんだことで、年間捕獲頭数はやや減少する見込みである。兵庫県立大学の調査では、山間部でシカの生息密度が高く、さらなる農作物被害の軽減に向け、山間部等での捕獲を行っていく必要がある。		
改 善 策	山間部での効率的な捕獲方法等について、兵庫県立大学や各狩猟団体と連携し、駆除活動に取り組んでいく。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	農作物被害の一層の軽減を図るため、有害鳥獣の捕獲を今後も継続していく。ジビエ利活用について、需要がないと進まないという課題はあり、SDGsの観点からも有害鳥獣として捕獲した命の有効活用を検討する。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☒ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減	☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	スマートシティ推進事業(有害鳥獣捕獲)							事業コード	210175					
政策体系	基本政策	8 市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち				政策目標	3 稼ぐ力のある農林業の確立							
	施 策 名	2 有害鳥獣対策の推進						施策コード	832					
事業担当	所属	25020000 産業政策部 農林業振興課				所属長	中田 浩二							
会計情報	款	06 農林業費		項	02 林業費		目	02 林業振興費		会計	01 一般会計	決算附属資料	190	頁
計画期間	開始年度	令和2年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	福知山市鳥獣被害防止計画				R5現在の状況	継続中	
根拠法令等	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☒ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (													

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	有害鳥獣対策に関する先進的知見を持つ兵庫県立大学の協力を得て、有害鳥獣対策に意欲的な地域から選定したモデル地区において、ICT機器を活用した地域主体の積極的な有害鳥獣対策を推進する。また、モデル地区で得られたデータやノウハウを有効活用し、モデル地区以外の地域においても「地域主体の獣害対策」を推進させるため出前講座を実施する。兵庫県立大と連携・協力して、ICTを活用した様々な有害鳥獣に関するデータを可視化するシステムを活用し、各地域における獣害対策の現状と課題を明確にすることで地域の獣害対策に係る意欲向上を図る。					
対象者	総農家(2020農林業センサスデータ)		対象者数	3,081	単位あたりコスト	7.7
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)							
予算情報	① 当初予算	13,623		16,294		11,130		14,807							
	② 補正予算	0		0		0		0							
	③ 繰越予算	0		0		0		0							
	前年度繰越	0		0		0									
	次年度繰越	0		0											
小計(①～③)		13,623		16,294		11,130		14,807							
予算財源内訳	① 一般財源	0		0		0		0							
	② 国支出金	6,811		6,812		5,493		7,323							
	③ 府支出金	0		0		0		0							
	④ 地方債	0		0		0		0							
	⑤ その他特財	6,812		9,482		5,637		7,484							
決算情報	① 流充用額	0		0											
	② 配当予算	13,623		16,294											
	③ 執行額	13,619		15,365											
	④ 執行率	100.0%		94.3%											
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	1.21	/	0.00	1.04	/	0.00	/							
	② 概算人件費	9,680		8,320											
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		23,299		23,685											
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	スマートシティ推進事業(有害鳥獣捕獲)(地方創生推進交付金)		種類	農林業費国庫補助金		6,808		20	頁				
			スマートシティ推進事業(有害鳥獣捕獲)基金繰入金(ふるさと納税基金)			基金繰入金		実績金額				8,504		決算附属資料	42

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標	
	「地域主体の獣害対策」取組み地区数	地区	0	/	0	2	/	2	3	/	3	—
			/		/		/		/			
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標	
	モデル地区獣害対策集落指導	回	2	/	0	13	/	12	12	/	15	—
		単位あたりコスト	4852.5		1047.6		1280.4					
	獣害対策出前講座の実施	回	0	/	0	5	/	0	3	/	3	スマートシティ推進事業（有害鳥獣捕獲）
		単位あたりコスト					5121.7					

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	豚熱の影響等により有害鳥獣による農作物への被害は減少傾向であるが、依然として各農区からの有害鳥獣対策の要望は強い。 人口減少・高齢化によって担い手の減少が進む地域においては、「地域主体の獣害対策」を普及させ、地域全体が連携協力して獣害対策に取り組む必要があり、獣害対策モデル地区において民・官・学が協働して先進的な対策を行い、地域主体の獣害対策の成功事例を作ることで、他地域へのスムーズな水平展開に繋げることができるため、市が事業を実施する必要性は高い。	☐ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	ICTを用いたデータの可視化システムの運用や、モデル地区における対策の水平展開に向けた今後のコンサルティング等に関しては、有害鳥獣対策への知見が深く、兵庫県内での実施事例のノウハウを持つ兵庫県立大学に委託することで、効果的な成果が得られる。 獣害対策に関して、多岐にわたる業務を包括的に委託しており、先進的な有害鳥獣対策の将来的な水平展開を鑑みて、経費は適正であると考えられる。	☒ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	獣害対策には「捕獲」と「防除」の両立が不可欠である。地域の方が主体的に取り組むことができ、その努力が数字に表れるICT機器を活用した対象鳥獣の捕獲数を成果目標として設定することで、地域住民のモチベーションの維持・向上に繋げる。 モデル農区での取り組みは兵庫県が実施している「ストップ・ザ・獣害」事業を参考にしており、当該事業の中核を担う兵庫県立大学及び兵庫県森林動物研究センターの協力を得て進めている。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	獣害対策の最終的な目標は、人口減少や高齢化が進む地方都市において、行政や狩猟者に過度に依存することなく、地域住民による地域主体の獣害対策を実現させることにある。 福知山市獣害対策モデル地区では獣害対策を「地域づくり」の一環としてとらえ、民・官・学が協働して地域が主体の獣害対策に取り組んでいる。地域が主体で取り組む獣害対策には多くの関係者の協力を得ながら進めていくことが望ましく、定量的な評価としては捕獲数の増加や被害面積の縮小、被害額の減少が挙げられる一方で、定性的な評価としては地域住民の獣害対策に対するモチベーションの向上や被害地域の住民の当事者意識の改善、獣害対策のワークショップやそれに付随したイベントの実施等による関係人口の増加が挙げられる。 令和3年度において、モデル地区では地域主体で「捕獲」と「防除」を高いレベルで両立することができ、地域住民が中心となった捕獲活動を行い、自分たちの取り組みが成果にも表れた(捕獲頭数 R元年度:0頭→R3年度:25頭)ことで、地域の獣害対策に対するモチベーションが向上した。 令和4年度ではこの活動を継続したことにより、農作物被害を受けた田畑の被害面積・被害量を軽減することに成功した。(R元年度とR4年度の被害地図比較) この地域主体の取り組みを継続的なものにするべく、地域のモチベーションの維持・向上やICT通信機器のランニングコストが課題として認識している。		
改 善 策	R5年度においては田植え前や収穫直前など農作物被害軽減のターニングポイントを中心に定期的なワークショップを実施し、地域主体の獣害対策の継続的な支援に向けた取り組みを継続していく。ICT機器を効果的に活用して地域の軽減負担を図りつつ、地域・市・大学の連絡を密に取り、双方向的な情報発信の中で効果的なアドバイスを行っていく。 また、モデル地区で得られた獣害対策のノウハウを集積することに努めるとともに、出前講座を企画・実施して他地域への水平展開を図る。		

VI 二次評価(事業所屬外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	引き続き獣害対策に先進的な知見をもつ兵庫県立大学と連携して獣害対策モデル地区の支援を継続するほか、次期被害防止計画策定に向けた生息密度推定調査を実施する。 また、福知山公立大学とも連携し、獣害対策におけるICT機器の効率的な活用やランニングコストの軽減を検討する。 モデル地区等で得られたノウハウの市内他地域への水平展開や、獣害対策の取組のPRを目的として、引き続き積極的な広報活動や、出前講座の実施を通じて市民への普及活動に取り組む。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持	☐ 廃止/休止	☒ 予算拡充	☐ 予算縮減
	☐ 他事業を統合	(統合事業名:)		☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	有害鳥獣防除事業										事業コード	210177			
政策体系	基本政策	8 市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち						政策目標	3 稼ぐ力のある農林業の確立						
	施 策 名	2 有害鳥獣対策の推進								施策コード	832				
事業担当	所 属	25020000 産業政策部 農林業振興課						所属長	中田 浩二						
会計情報	款	06 農林業費		項	02 林業費		目	02 林業振興費		会計	01 一般会計		決算附属資料	190	頁
計画期間	開始年度	平成20年度		終了予定年度	令和7年度		関連計画名	福知山市鳥獣被害防止計画					R5現在の状況	継続中	
根拠法令等	鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律、福知山市野生鳥獣被害防止対策事業補助金交付要綱														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	シカ、イノシシ等の野生鳥獣による農作物等被害を軽減するため、「福知山市鳥獣被害防止計画」に基づき、侵入防止柵の設置等の支援を通して防除対策を推進する。					
対象者	総農家(2020農林業センサスデータ)		対象者数	3,081	単位あたりコスト	3.9
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☒ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)						
予算情報	① 当初予算	1,393		1,700		2,349		3,111						
	② 補正予算	5,315		0		2,810		0						
	③ 繰越予算	0		0		0		0						
	前年度繰越	0		0		0								
	次年度繰越	0		0										
小計(①～③)		6,708		1,700		5,159		3,111						
予算財源内訳	① 一般財源	6,708		1,700		5,159		3,111						
	② 国支出金	0		0		0		0						
	③ 府支出金	0		0		0		0						
	④ 地方債	0		0		0		0						
	⑤ その他特財	0		0		0		0						
決算情報	① 流充用額	0		0										
	② 配当予算	6,708		1,700										
	③ 執行額	6,134		782										
	④ 執行率	91.4%		46.0%										
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	1.16	/	1.00	1.09	/	1.00			/				
	② 概算人件費	11,780		11,220										
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		17,914		12,002										
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称			種類			実績金額			決算附属資料			頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標			
	野生鳥獣による農作物年間被害額	千円	26035	/	31243	34744	/	29247	15874	/	27251	/	27370	21560
			/		/		/		/					
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標			
	有害鳥獣侵入防止柵設置	km	21	/	27.9	64	/	44.1	32	/	43	/	37.6	5962.4
		単位あたりコスト	137.6		95.8		24.4							
			/		7		/		/		/		有害鳥獣防除事業	
		単位あたりコスト												

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	野生鳥獣による農作物等への被害は、単に農作物等の収穫量が減少するだけでなく、農家の営農意欲や農地保全に大きな影響を与える。このような中、福知山市有害鳥獣対策協議会が実施する「侵入防止柵」の資材貸与は、地元からの要望に基づき事業が進められている。本事業は、このような地元のニーズを的確に捉えた事業を支援することを通して野生鳥獣からの農作物被害を減らすことを目標としており、必要性、優先度ともに高い事業である。	☑ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	野生鳥獣対策においては、「捕獲」、「防除」、「生息環境管理」の3本柱の対策を総合的に取り組むことが重要である。このような中、捕獲を効果的に実施するための防除の要となる「侵入防止柵」は、施工性が優れ、長期間の使用に耐えることが必要であり、経費は妥当な水準である。また、事業の実施主体である福知山市有害鳥獣対策協議会は、「侵入防止柵」の発注を競争入札により行っており、コスト削減に向けた取り組みがなされている。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	活動実績は、福知山市有害鳥獣対策協議会の事業実施にかかる指標である。当協議会の事業を推進することで、活動実績が達成され、間接的に成果実績に結び付き、成果目標の達成を図るものである。活動実績は、侵入防止柵等の設置出来形を適切に検査確認し把握している。成果実績は、毎年度、農区等へ調査を行い、実態を把握しているものである。この活動実績指標の推進による投資に対し、成果実績指標の改善効果は、営農が継続される限り続くことが期待でき、投資効果の高い事業である。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	有害鳥獣対策事業の推進により、令和4年度の農作物被害額は大幅に減少した。 一方で、対策を緩めると、有害鳥獣の生息数増加や、農地への侵入による農作物被害の拡大が懸念されるため、継続して「捕獲」、「防除」、「生息環境管理」の3本柱の対策を推進する必要がある。 「防除」対策においては、侵入防止柵の設置・設置後の維持管理の推進による侵入防止対策や、地域による追い払いや生息環境管理が重要な取り組みとなるが、いずれの取り組みも人員が必要となるため、高齢化が進む中、地元の労力確保が課題である。 また、クマの出没による生活環境被害や人身被害の懸念がある中、主な原因となっている柿の木対策が課題である。 なお、令和4年度決算について、サル対策を京都府の事業の中で実施することができ、協議会への補助が不要になったため執行率が低くなった。		
改 善 策	今後も防除対策に対する国の財政支援の強化を継続して要望する。 また、「防除」対策については、有害鳥獣対策を地域の課題として認識していただき、地域で対策を取り組んでいただけるよう、研修会等を通して普及啓発に努める。 クマの誘引物である柿の木等の対策についても、市ホームページやチラシの配布などにより広く地域への周知に努める。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	農作物等被害の一層の軽減を図るため、有害鳥獣の防除を今後も継続していく。 令和5年度はクマの誘引物である柿の木等の対策について地域への周知に努めており、さらに対策を推進するために令和6年度は放任果樹の伐採支援を行う。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持	☐ 廃止/休止	☐ 予算拡充	☒ 予算縮減
	☐ 他事業を統合	(統合事業名:)		☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)